

花きの県別生産出荷概況(5月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	4月出荷見込み 千本		主産地	4月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
バラ	青森県	2.23 (98%)		120 (106%)	90 (102%)	つがる市 南部町	15	40	45
	群馬県	19.1 (94%)	ローテローゼ アッパーピンク テネシー ヴェラドンナ シモナ	1,063 (106%)	957 (109%)	前橋市 利根沼田 甘楽富岡	35	35	30
	千葉県	3.6 (100%)	サムライ ザ・テレサ ローテローゼ ノブレス	250 (100%)	200 (100%)	鴨川市 南房総市	30	30	40
	山梨県	4.1 (91%)	ローテローゼ サムライ	200 (86%)	198 (90%)	笛吹市 (御坂町)	30	30	40
	愛知県		サムライ、ファンタジー レッドスター、ファンファール アヴァランジェ チネケ シンディ	4,500 (102%)	2,650 (105%)	愛知みなみ 豊橋 ひまわり 西三河	35	30	35
アルストロメリア	青森県	1.79 (100%)	イーグル	135 (103%)	110 (101%)	藤崎町	10	40	50
	山形県	9.4 (92%)	レベッカ レモン オルガ アバランジェ メイフェア、エベレスト	971 (90%)	434 (91%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	35	30	35
トルコギキョウ	千葉県	7.0 (100%)	キングオブスノー 春うらら ピッコロサスノー	70 (100%)	50 (100%)	館山市、鴨川市、南房総市 (丸山、千倉)	10	20	70
	宮崎県	2.6 (104%)	ボレロホワイト ダイヤモンドピーチ サルサマリン	100 (102%)	12.2 (100%)	宮崎中央 日向	30	40	30
	熊本県	19.4 (97%)	ミヨシ系 サカタ系 八江系	721 (101%)	409 (101%)	熊本市 あまくさ 球磨	28	34	38
カーネーション	群馬県	7.7 (100%)	マザービューティー	840 (100%)	670 (100%)	邑楽館林 前橋市 利根沼田	85	10	5
	千葉県	22.0 (100%)		6,200 (100%)	2,200 (100%)	南房総市(富浦、三方、白浜、丸山、和田) 鴨川市 鋸南町	50	40	10

輪菊	愛知県		精興の誠 神馬 精興光玉 精興光明	27,000 (102%)	16000 (104%)	愛知みなみ ひまわり 西三河 あいち知多 尾張地域	28	37	35
	宮崎県	38.7 (91%)	神馬 山陽黄金 精の曲 優花 岩の白扇	626 (99%)	3 (100%)	国富 都城 こばやし えびの市 尾鈴	20	40	40
	沖縄県	1.8 (110%)	太陽の響 新世黄	1,033 (96%)	258 (98%)	伊江村 今婦仁村 本部町 中城村	65	30	5
スプレーギク	愛知県		プリンス、レミダス エルザ 風車系 ベスビオ系 モナリザ系	6,850 (101%)	4000 (102%)	愛知みなみ ひまわり	30	35	35
	鹿児島県	42.2 (106%)	ジャパン アグリバイオ	1,250 (100%)	250 (100%)	いぶすき山川 そお鹿児島	35	30	35
	沖縄県	0.2 (150%)	セイエルザ	182 (167%)	64 (150%)	読谷村 中城村	100		

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	低温・日照不足から生育は遅れ気味。今後の気温・日照にもよるが、5月連休明けぐらいから出荷開始見込み。	<b>現状</b> 入学式需要も落ち着き、低調な取引が続く。本年は震災の影響で婚礼のキャンセルも相次ぎ、例年より件数は少なめ。特に白系、赤系SPの引き合いが弱い状況。
	生育・品質は概ね順調で、作柄は平年並みで推移、前年並みの出荷を見込む。改植を早めた人もいる。価格次第で出荷量が変わる。	<b>見通し</b> 大田花き 上旬は母の日需要で引き合いは見込まれるものの、3週目意向は引き合いが極端になくなる見通し。冬場休眠していた高冷地(長野・大分等)から出荷が増加傾向。また、西南暖地では改植が進む見込み。
	越冬期に加温を控えた作型も加わり、今後、出荷量は徐々に増加する。	FAJ 東北・高冷地の入荷も始まり、入荷量増える。月初め、母の日前の引合い高まる見込み。
	病害虫の被害もなく品質は良好。ただし、震災の影響で価格が暴落したことから生産者から不安の声が聞かれる。	第一花き 母の日 需要中心の流れ、中旬以降は厳しい販売。
	早い方で一部改植を実施する生産者もいるが、毎年の流れであるため、大きな変動はない。作付け自体は変化はないため、SPマム同様、天候の好天を受け出荷量は昨年よりやや多めの見込みとなる。ポトやハダニに注意を促している。	
アルストロメリア	低日照から葉芽の発生が多く、継続的に収穫してきた品種の出荷量が、やや少ない。ピークは、6月にズレ込む見通し。また、病害虫の発生は少ない。	<b>現状</b> 4月中旬に各産地出荷のピークを迎え各色潤沢な入荷となった。需要も落ち着き、相場は低調となった。下旬にむけて徐々に減少し、少しずつ相場は戻ってくる。
	出荷量は増加傾向であるが、大震災の影響で燃油を節減するため4月の加温温度を下げたこと、一部の産地で栽培面積が減少したことから、出荷量は前年よりも少ない見込み。切り花品質は良好である。	<b>見通し</b> 大田花き 5月になると改植が始まり、各産地大きく減少傾向。愛知、山形、北海道が主産地となり、大きな増減はないが数量は少なめで推移するが例年並を予定。 FAJ 山形・長野中心。出荷本格化し、まとまった入荷となる見込み。 第一花き 母の日 プライダル需要中心のながれ、高値はないが安定した流れ、産地間による単価差はでる。
トルコギキョウ	生育は1週間程度遅れているが、切り花品質は良好。出荷は6月から本格化。	<b>現状</b> 国産においては、全般的に生育遅れでの出荷となっている。静岡、高知、熊本中心に例年並の数量とはなっている。輸入に関しては、4月で出荷終了となる。遅れていた宴会需要等で大きな引き合いは無いものの、安定取引となった。
	品質良好。2月は日量200～250ケース出荷予定。規格は2L中心。	<b>見通し</b> 大田花き 遅れていた分の出荷も母の日後纏まってくる見込み。母の日需要期には、堅調な取引が見込まれる。高冷地に関しては、5月下旬からの出荷を見込む。
	4月上旬は天候が回復し、一部産地でシミが散見されるが、丈・ボリューム確保できている。今後の天候次第だが、出荷ピークは、5月上旬から中旬頃の見込み。	FAJ 九州・東海の入荷ピークとなる。プライダル需要中心の動き。白・ピンクの引合い強い。 第一花き 母の日 業務需要中心の流れ、入荷も安定した中 概ね例年並みの流れ。
カーネーション	作柄・出荷量は前年並みを見込む。	<b>現状</b> スタンダードカーネは国産は横這いで推移。輸入は3月震災の影響で販売苦戦し例年より販売状況をみながらとなり慎重な出荷となる。スプレーカーネは国産の出遅れたものが増加に転じ安定期供給となる。入学式需要以降の販売は例年通り買い控えの状況。中旬後半から母の日試し買いも始まりスタンダード系は上昇傾向。最終週後半から本格的仕入れがスタート。
	2月までの低温で生育は遅れ気味だが、今後1～2週間快晴が続けば母の日向け出荷は潤沢になる見込み。病虫害は少なく、切り花品質は良好。	<b>見通し</b> 大田花き 上旬は母の日需要で月曜日が入荷のピーク。例年どおり需要は月曜ピークで徐々に引き合いは落ち着く見込み。母の日後は入荷、需要も下降となり厳しい立会い。5月後半より高冷地もの入荷増で幾分回復傾向へ。 FAJ 母の日中心の動きとなる。入荷量は各産地とも順調な入荷となる見込み。

輪菊	4月下旬に向けては減少傾向となる。5月は上旬は少なめで推移し、中旬以降ややまとまる見込み。昨年よりは少ない予定であるが、黄色の割合が高くなる。季節柄、白さびやダニが発生しやすくなるので、防除を徹底して行う。	現状	白菊に関しては中旬以降愛知中心に他の産地からも数量が纏まった入荷となる。業務需要中心の引き合いではあるもやや供給過多となり価格帯は落ち着いたものとなる。色菊に関しては引き続き沖縄中心に、愛知、静岡などより精興光玉、黄金浜などの出荷が増加し業務、小売中心の引き合いとなる。
	夏菊への植え替えのため、出荷量が減少する。病害虫じゃやすい時期だが、計画的な防除に努めている。規格は2L中心となる。現在の市況を懸念し、3月下旬に出荷する予定のものを遅らせて出荷する可能性がある。	見通し	白菊に関しては愛知の上位等級中心に安定入荷となる見込み。業務中心の引き合いではあるも価格帯はやや供給過多の為落ち着いた物となる見込み。色菊に関しては上旬辺り迄沖縄の入荷が続き、その他産地に関しては季咲きの品種中心に数量が徐々に増加していく見込み。中旬以降沖縄の数量も減少することから小売中心に中旬以降引き合いが強くなる見込み。
	生育は概ね順調に推移している。5月からは作付けは減少し、比較的高温に強い「太陽の響」、「新世黄」の作付けが中心となっている。	大田花き  FAJ	愛知中心の入荷。ゴールデンウィークの入荷は昨年よりやや少なめ。中旬以降は例年並みの見込み。
スプレーギク	輪菊同様にここにきて少しずつ数量も増えており、5月についても概ね例年並の安定した出荷を見込む。昨年に比べ天候に恵まれているため、作付けはあまり変わらないものの、出荷率が向上する見込み。	現状	周年産地はやや遅れていた分が中旬より数量増加。しかし、大きな需要も無く厳しい相場展開で推移。輸入品はマレーシア産中心の入荷で、安定した取り引きであった。
	5月出荷量は昨年並みの見込み。4月下旬より出荷量は増加し、5月中旬にやや減少する見込み。病害虫の発生は特段問題なく、生育は順調。	見通し	各産地安定した入荷となるが、大きな需要も無く厳しい相場展開が見込まれる。
	5月上旬で出荷が終了の予定。	大田花き  FAJ  第一花き	愛知中心の入荷。鹿児島減少、栃木は不規則な入荷。前月並みの相場展開となる見込み。  業務需要中心の流れ、大きな需要もないが概ね例年並みの動き